

# 景況実感調査(2019年10月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適切な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

## 薄板・表面処理鋼板

- ① 21日稼働と対前月2日増となるも売上、数量共に大きく減となった。消費税率上げの反動の影響もあると思われるが、台風の被害も広範囲となり、11月に入っても回復の動きは鈍く、メーカーの売り姿勢と裏腹に市況はジリ安となっている。客先の中にはリーマンショック時より悪化しているところもあるようだ。
- ② 9月末薄板三品在庫443.5万トン。8月末から13万トン減ったとはいえ、溢れかえっているほど多い量は変わらない。これに加え、輸入玉の巷での滞船量が増加しているとのこと。在庫増傾向はまだまだ続く模様。市況下落が進みそうだ。
- ③ 10月は前月より稼働日が1日増であったが、台風の影響もあり売上は減少。輸入材の値下げオファーなどが見受けられ、先行きの市況への影響が懸念される。
- ④ 全般的に振るわない。数量も伸びない。収益もとれない。このまま今年も終わり、オリンピックで盛り上がりながらも商売は盛り上がらない。

## 中板

- ① 8月、9月と低調であった加工量が10月には回復してきたが、需要元は限定的で反動要因も感じられ、今後の動きに注目したい。販売については依然として店売りの低調は変わらず、市況のジリ安基調に歯止めが掛からない。国際市場は、一部インド高炉の値上げ提示から底入れの兆しとの情報もあるが、自動車などの製造業停滞から、先になるのではないと思われる。連れて国内市場において在庫の過剰感が拭いきれないことから、先行きの下押しも懸念される。

## 厚板

- ① 販売量は、対前月では稼働日が1日多かったことから微増となったが、対前年比では10%を超える減少となった。とくに素材販売は、好調だった前年同月と比べると2割近い大幅な減少となっている。また、引合いも弱いことから先行きも楽観できない。建設機械はもとから需要が弱いことに加えて、台風19号の影響によって生産調整が入っており、11月は大幅な受注減を見込んでいる。産業機械は海外を中心とする在庫の過剰を解消するために生産量を減らしており、低迷が続く見込みである。着工が遅れていた土木案件の立ち上がりが見える材料だが、前記の各要因を打ち消すには力不足となっている。

## —舟爰开彡金岡

- ① 小口当用買いの順調な荷動きは、月初から中旬まで続いたが、その後は閑散化。現状維持で11月が終わるなら厳しい結果となる。比較的薄い市庫中在庫だが、市況にも負の影響を与える。

## 工工形鋼

- ① 10月の倉出しは微増。前年同月比では10%減。前年ほどの盛り上がりではない。需要期で土木向けの在庫は増えている。指値が厳しいが、市況維持に努める。
- ② 例年であれば一年の内一番の繁忙期であるが、例年のような迫力に欠ける状況。建築物件の遅れ、輸出の減退が要因と思われるプラスだが、期待したほどの数字ではなく、秋需感もない。メーカーの値下げもあり、引合いも少なく、指値も厳しく、市況の下落は避けられない。

## 異形棒鋼

- ① 店売りの価格は横這い。秋需は例年ほど盛り上がることはないが、そこそこの需要はある。
- ② 9月より荷動きが悪化している。3度の台風被害の影響もある。秋需も無く、売上不足で厳しい環境が続いている。

## 平鋼

- ① 9月に若干の回復を見せたが、また元に戻ってしまった。荷動きは悪く、在庫の補充もなく、当用買いが中心。価格は荷動きが落ちている割には保っている。建築関係も多少は動きがあるものの、例年と比べると非常に少ない。年内はこのままではないか。

## 車量開形鋼

- ① 受注品のバラツキが多く、例年の繁忙期の状況とは違う。
- ② 10月になり多少良くなった感じが出てきた。この状況が長く続いてほしいと願いながら商売をしている。

## 鋼管

- ① 大雨や台風の影響により、日当たりの扱い数量が直近値で最低レベルとなった。
- ② 連休や台風などで荷動きは例年に比べて大きく落ち込み、需要期ではありながら低調推移が続いている。

## 構造用鋼

- ① 自動車、建設機械、工作機械等、全般的に需要低迷。市況については弱含みながらも大きな下落には至っていない。ただし、現状の需要低迷が長引くか、製鋼メーカーの値下げであれば一気に市況が下落することも懸念される。
- ② 需要環境は全体的に盛り上がりを欠いた状態が続いている。比較的堅調だった自動車関連も調整局面で勢いを欠く状況。建機の中小型も減速しており、産機、工作機械は低位で推移。市中在庫は多め感が残り、調整局面。価格は一部で安値も見受けられるが、局地戦にとどまり、当面現行値圏で推移するものと思われる。

## 磨棒鋼

- ① 自動車向け紐付き品はメーカーにより明暗が分かれている。一部物件では更にもう一段階の調整を迎えているものもある。大雨による水害でメーカーが被害に遭ってしまったところもあり、出荷の見合わせ等の話もある。小口の店売りについては、8月を底にスポット案件を中心に回復の兆しも見えてきた。高炉メーカーより原材料となる特殊鋼棒線の値上げを要請されおり、年末に向けて販売価格への転嫁を進めていく。ただし、需要が落ち着いている現状で、どこまで顧客の理解を得られるか全く不透明である。

## 鋼木才—舟安

- ① トラックの動きが多いものの売り上げに直結していない。

## その他

### <鉄スクラップ>

- ① 相変わらず荷動きは悪い。スクラップ相場は10月に入り下げ止まったものの、相場を押し上げるようなプラス要因も聞こえてこないので、様子見が続きそうだ。

### <金属表面処理加工>

- ① 10月は物件物で付加価値の高い加工があり売上増に貢献。紐付きも計画通りとなった。スポットも前月比15%増。11月から1月にかけての物件物の受注案件、引合いも多きことから高操業を維持しそうである。